

特集「サイバーコミュニケーション環境を実現するネットワークサービス」の編集にあたって

松野浩嗣^{†1}

近年のインターネットの発展は著しく、高度情報基盤として社会に浸透し、人々の生活の中で必要不可欠なものとなっている。従来の Web やメールを中心としたインターネット上のサービスも高度化・多様化し、経済活動だけでなく日常生活もネット上で行われる、いわばサイバー社会が形成されつつあるといっても過言ではない。こうした中、これまでの 1 対 1 でのマルチメディア通信の限界を超え、多対多のユーザがネット上の「場」を介してマルチメディア情報を安全・安心・便利にやり取りすることが可能な「サイバーコミュニケーション環境」の構築が急務となっている。サイバーコミュニケーション環境を実現するためには、従来のネットワーク基盤、サービス、アプリケーションの高度化に加え、サイバー社会を支える新たなネットワークサービスの展開が必要となる。具体的には、利用者中心のサービス提供、Web コンピューティング、高臨場感通信、社会性の実装、現実世界とのインタフェース、セキュリティ/プライバシーを考慮したコミュニケーションなどである。これらの新たな視点に基づいたネットワークサービスを、これまで本学会で長年議論されてきたネットワークアーキテクチャ、通信基盤技術、マルチメディア通信技術、分散処理技術、アプリケーション技術等と高度に融合することによって初めて、サイバーコミュニケーション環境の実現が可能となる。

本特集号では、こうしたサイバーコミュニケーション環境を実現するネットワーク基盤技術、サービス技術、アプリケーション技術、新世代のマルチメディア処理や分散処理に関する論文の募集を行ったが、残念ながら投稿数は昨年を下回る 20 件であった。この原因として、同時期に他のネットワーク系研究会の特集号のメチが多く設定されたことが考えられるが、研究会間の調整等、今後何らかの対策が必要となるだろう。

編集委員会は 5 回開催した。論文募集前に行った 1 回目の委員会では、「採録されるための原稿の修正案を示すことに努め、論文の質を高めるためのコメントを著者にフィードバックすること」、「可能な限り早く結果通知が行えるよう、査読者に協力を依頼するとともに、査読スケジュール、編集委員会

開催の回数やタイミング等について工夫する」ことを基本方針として定めた。第 2 回編集委員会でメタレビューアと査読者の選定を行い、第 3 回編集委員会で査読報告の審議を行った。先に掲げた基本方針に従い、一件ずつ査読コメントを丁寧に確認し、論文の質を高めるコメントが著者にフィードバックできるように努めた。

もう 1 つの基本方針である「早い結果通知」の実現のために、最終判定を行う会議を 2 回に分けて開催した。9 月末に開催した第 4 回編集委員会では 10 件の論文が採択され、通常よりも 2 カ月早く採録通知を出すことができた。10 月末の第 5 回編集委員会では 3 件が採択され、結果的に 13 件の論文が採択され、採択率は 65%であった。13 件の内訳は、プロトコルやサービス実行機能等、情報伝送の基盤技術に関わるものが 4 件、広告等の情報配信サービス関係が 2 件、映像の配信や視覚情報の共有等の遠隔画像情報に関するものが 3 件、P2P 技術の基礎と応用の論文が 2 件、セキュリティと画像処理を扱ったものがそれぞれ 1 件となっており、サイバーコミュニケーション実現のための基盤技術から応用まで特集号の狙いに合致した論文を採録することができた。

最後に、本特集号を発行する機会を与えていただいた論文誌編集委員会と、迅速で丁寧な査読をしていただいた査読者の皆様に謝意を表したい。特に、東北大学の菅沼拓夫先生をはじめとする編集委員の方々、そして学会事務局の担当者の方には、通常の特集号編集プロセスよりも 2 回多くの編集委員会を開催するなど、タイトなスケジュールの中で多くの仕事をしていただいた。皆様のご尽力に深く感謝申し上げたい。

「サイバーコミュニケーション環境を実現するネットワークサービス」特集号編集委員会

- 編集長
松野浩嗣（山口大学）
- 幹事
菅沼拓夫（東北大学）
- 編集委員（五十音順）
明石 修（NTT 未来ねっと研究所）、上原 稔（東洋大学）、岡下 綾（日本電気）、
加藤由花（産業技術大学院大学）、金井 敦（法政大学）、菊池浩明（東海大学）、
北形 元（東北大学）、串田高幸（日本アイ・ピー・エム）、小塚 宏（三菱電機）、
佐藤文明（東邦大学）、重野 寛（慶應義塾大学）、重安哲也（広島国際大学）、
柴田義孝（岩手県立大学）、清水将吾（産業技術大学院大学）、田上敦士（KDDI 研究所）、
滝沢泰久（関西大学）、寺西裕一（大阪大学）、中村素典（国立情報学研究所）、
乃村能成（岡山大学）、東野輝夫（大阪大学）、藤田 茂（千葉工業大学）、松倉隆一（富士通研究所）

^{†1} 山口大学
Yamaguchi University